

Ⅲ 公開授業研究会

(1)

小学部 5年 算数科 指導案

日 時：令和5年11月29日（水）

時 間：9：40～10：25

場 所：小学部5年教室

指導者：T1 義高美千代 T2 半澤龍

1 単元名 「いろいろなかたちをみつけよう」

2 単元の全体目標

(1) 形の種類と名称が分かり、形に着目して集めたり分類したりすることができる。(知識及び技能)

(2) 形の性質に気付き、形を作ったり言葉や身振りで表したりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(3) 身近にある形に関心を持ち、進んで形を見付けようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

(1) 児童について

- ・小学部5年生は、男子4名、女子1名、計5名の学級である。
- ・算数の図形に関する学習はこれまでも行ってきており、5名とも形のマッチング（同じ形を指さす）や型はめをすることができる。対象児を除く4名は、基本的な形の丸、正三角形、正方形の形カードであれば大きさや色が異なっても形に着目してカードを分類することができる。しかし、だ円や直角三角形、直角のない四角形になると正しく分類できないこともある。形を構成する直線や角の名称、数などについては興味を持ち始めている児童もいる。
- ・形を見て「まる、さんかく、しかく」と言葉で形を伝える児童、発音が不明瞭でうまく伝えられない児童など実態は様々である。
- ・これまでの算数では、具体物を操作する体験的な学習に、意欲的に競い合いながら取り組んできた。しかし、体験的な活動の中で手元にある操作物（カードやブロック等）が気になり、こだわったりふざけて遊び出したりして学習に集中できないこともある。

(2) 教材観

①本単元に関連する、学習指導要領の主な内容 [C 図形]

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学部 2段階	目標	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	イ 身の回りのものの形に関心を持ち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。

内容	ア (ア) ⑦色や形、大きさに着目して分類すること。 ⑧身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	ア (イ) ⑦ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。
	イ (ア) ⑦身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ⑧縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ⑨大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	イ (イ) ⑦身の回りにあるものの形に関心に向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。

②単元（題材）について

- ・本単元「いろいろなかたちをみつけよう」は、単元の前半と後半でねらいを変えて取り組んでいく。前半は、前学年までに学習してきた基本的な形の分類に加えて、少し変わった形（丸や直角三角形、直角のない四角形など）を丸、三角、四角に正しく分類することをねらいとしている。
- ・後半は、形を使った模様作りや形の書き写し、箱を組み合わせた形作りなどを通して辺や角などの形の性質に気付くことをねらう。
- ・毎時間の中で形の性質を紹介するスライドを活用することで、丸、三角、四角の形だけでなく、形の名称の表し方（言葉や身振り）や辺や角などの性質についても少しずつ興味をもてることを考えた。繰り返しの活動を行い、知識の定着を図っていきたい。

(3) 指導観

- ・形の分類ができるように教師の言葉掛けで具体物の辺や角に直接触れて意識する場面をつくっていく。その上で友達が分類している様子を真似たり友達が前に出て形を発表するのを見たりすることで、友達と楽しみながら形に興味をもてるようにしていく。
- ・実態から活動に集中できないこともあるが、短い活動を組み合わせながら学習を展開していくことで、最後まで積極的に形の学習に取り組めるようにしていく。学習内容は日によって異なるが、形

を紹介するスライドを見た後は、児童の集中の様子に合わせて直接具体物等の操作、チャレンジタイム（児童の実態に合わせた課題や選んだ課題等）に適宜切り替えながら進めていきたい。また、動画（サンタクロースから形について教えてほしいという依頼）を通して目的意識や意欲をもって活動に臨むことができるようにしていく。

- ・各自取り組んだことは、振り返りの時間の中で友達に頑張りを発表したり紹介したりすることで、形の学習への自信や次回の学習へのやる気につなげていく。また、間違いやすい形を取り上げ、意見を交流させながら全員で確認できるようにする。
- ・T Tの工夫として、学習の気付きやそれぞれの児童の様子、つまずき等を言葉にして学級で共有することで、みんなで取り組んでいる雰囲気作りをする。

対象児童	S・Y（男子）
算数科の図形に関する実態	
<ul style="list-style-type: none"> ・形のマッチングや型はめをすることができる。 ・丸については、正しく描いたり、「まる」と言ったりすることができる。 ・三角、四角については、形の分類はできるが、発音の不明瞭さがあり、「さんかく」と言っているのか、「しかく」と言っているのか聞き取りにくさがある。 	
単元の個別目標	<p>(1) 丸、三角、四角の形を知り、分類することができる。（知識及び技能）</p> <p>(2) 丸、三角、四角の形の違いに気付くことができる。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3) 形に興味をもって、分けたり集めたりしようとする。 (学びに向かう力、人間性等)</p>
主体的に活動する姿に対する実態	
<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組み見通しがもてる活動には、進んで取り組むことができる。 ・どんな活動においても、1番目に活動することは少ないが、友達の取り組む様子を見てからだど安心して取り組むことができる。 ・自分がしようと思っていたことを他の人がすると、怒ったり、最初からやり直そうとしたりする。 ・プリント学習は進んで取り組むことができる。 	
期待される主体的に活動する姿	
<ul style="list-style-type: none"> ・集中して教師の話を聞いたり板書を見たりして、形の分類や振り返りに取り組む。 ・分かったことをサンタさんに教えようと進んで形を選ぶ。 ・返事をするなど反応をしながら、表情良く学習に取り組む。 	
主体的に活動するための支援と手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が評価をすぐに受けることができるように、全体で学習することをテレビに映すなどしてICTの活用を図りながら、児童が選択した課題に取り組んでいく。毎時間振り返りをし、友達や教師から称賛を受けることで本時以降でも学習意欲を継続できるようにする。 ・形を使った模様作りや写し書き、物作りなどの具体的な活動で児童の興味関心を引き出しながら取り組んでいく。また、児童が見通しや自信をもって活動に取り組むことができるように、同じ流れで学習を展開していく。 ・集中して学習に取り組むことができるように、活動によって席の配置を変えるなど、場の設定を工夫する。 	

4 指導計画 (7時間扱い 本時4/7)

時間	月日	主な学習内容
2	11 / 16 21	丸、三角、四角という名称を知り、同じ形を見つける(違う色、大きさ、材質)
2	28 (本時)29	丸、三角、四角を分類し、性質に気付く。
1	12 / 7	丸、三角、四角の色板を組み合わせて絵や模様を作る。
1	14	空き箱などの立体の形を紙に写し取る。
1	19	物に見立てて、空き箱を組み合わせる。

5 本時

(1) 目標

- ① 丸、三角、四角の形を探し、分類することができる。(知識及び技能)
- ② 丸、三角、四角の形の性質に気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 形に興味をもって、探したり分類したりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の個別目標

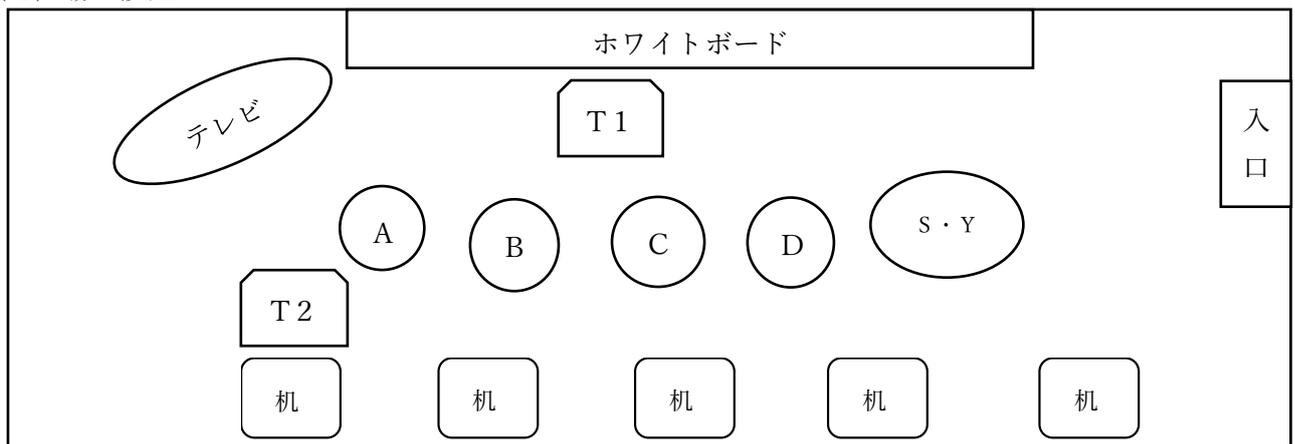
児童	本時の目標 (対象児童)
S・Y	(1) 丸、三角、四角を分類することができる。(知識及び技能) (2) 丸、三角、四角の形の違いに気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等) (3) 形に興味をもって、分けようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

時刻	活動内容	・指導上の留意点	評価場面	☆主体的に活動するための支援と手立て
9:40	1 活動内容を知る。 板書「めあて いろいろなかたちをまる さんかく しかく にわけてみよう。」	・学習の見通しをもつことができるように、活動のめあてをホワイトボードに貼り、活動の流れを確認する。		☆前回の授業での対象児の良かったところを伝えながら本時のやる気を引き出していく。
9:45	2 丸、三角、四角の違いを知る。 ・直線や角について知る ・形を丸、三角、四角に分類する ・変わった形の丸、三角、四角を分類する ・身近な物を丸、三	・スライドを見て直線や角に注目できるようにする。 ・T1が持った形の辺や角を提示したり、一緒に触ったりする時間をとる。 ・児童が丸、三角、四角の形を選んでホワイトボード上に貼り、形を確認していく。		☆児童から自発的に「まる、さんかく、しかく」と声が上がったときに称賛する。 ☆安心して活動できるように、何番目に活動するかを確認しながら活動を進めていく。

	角、四角に分類する	<ul style="list-style-type: none"> 手元に集中するために発表するとき形の手渡したり教材を提示したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">丸、三角、四角を仲間ごとに分類することができたか。</div>	
9:55	<p>3 チャレンジタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> サンタクロースからの依頼動画を見る。 テレビに映した写真から、どんな形があるかを見つける。 サンタクロースからのお礼動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識や意欲をもって取り組むことができるように動画を見てから問題に取り組む。 T1は、辺や角の数を根拠にして選ぶことができるように声を掛け、形の違いに気付く機会を増やしていく。 T2は児童と一緒に考えながら楽しい雰囲気作りをしていく。 解いた問題をホワイトボードに貼り、確認する。お礼の動画を見ることで次時の学習への意欲につなげていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">丸、三角、四角の形の違いに気付くことができたか。</div>	☆サンタクロースが困っている動画を見ることで児童が主体的に「サンタさんに教えてあげよう。」と活動できるようにする。
10:15	<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かったことをまとめる。 振り返りシートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに貼った難しかった形を全体に紹介し、共有する。今日の学習で分かったことを、教師の言葉でまとめていく。 振り返りシートに感想を記入し、友達に頑張ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">形に興味をもって、分けようとしたか。</div>	☆達成感、満足感を感じ、自信がもてるように、自分の学習を振り返り、良かった点を一緒に確認しながら称賛する。 ☆振り返りシートを記入することで次の授業へのやる気につなげていく。
10:25	5 終わりのあいさつ		

(4) 場の設定

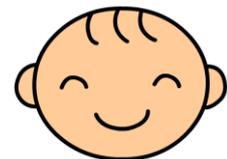
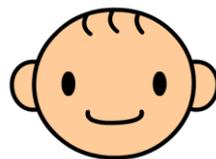
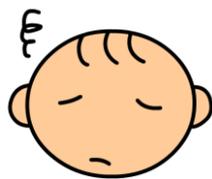


月 日

なまえ

☆ きょうのがくしゅうがおわって、どんなきもちですか。

○でかこみましよう。



☆ それは、どうしてですか。えらんで○をつけましよう。

かたちについて、よくわかったから。	
かたちについて、よくかんがえたから。	
はなしをよくきいたり、じぶんからとりくんだりしたから。	

(2)

中学部 作業学習 紙グループ カレンダー班 指導案

日 時：令和5年11月29日（水）

時 間：10:00～11:10

場 所：中学部作業室 紙1教室

指導者：T1 折原 彩乃 T2 和田 朋子

T3 柴崎 修 T4 中嶋 あす香

1 単元名 「注文を受けて作ろう～カレンダーを作ろう～」

2 単元の全体目標

(1) 自分の仕事や工程の中の役割を理解することができる。 (知識及び技能)

(2) どうやったら良い製品をたくさん作ることができるかを考えて工夫することができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(3) 一緒に取り組んでいる仲間を意識しながら、根気よく作業に取り組もうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

(1) 生徒について

- ・本作業班は、1年生1名、2年生4名、3年生2名の計7名で、男子が3名、女子が4名である。1学期から継続して紙グループに所属している生徒は3名で、残りの4名は今年度初めての紙グループである。2、3年生は昨年度も「注文を受けて作ろう」の単元を経験しており、見通しをもつことができている。1年生も、たてとく祭で製品を売る経験をしているため、自分達で作った製品を販売することへの意欲は高い。
- ・指示に従って、自分の役割に取り組むことのできる生徒が多い。また、数字が好きで、数字を順番に並べたり、書いたりすることが得意な生徒もいる。一方で、気になるものがあると立ち歩いたり、独り言を言い続けたりする生徒もいる。気分によっては、教師からの注意を受け入れられなかったり、大きな声を出したりして、長時間集中して作業に取り組むことが難しい生徒もおり、実態は様々である。
- ・これまでの学習で、作業室の整理整頓を行い、作業に関係のないものを片付けたり、目に入らない場所に隠したりすることで、立ち歩きが少なくなる生徒もいた。
- ・「〇時〇分まで」や「〇分間」などのような時間による目標や指示ではなく、「〇個作る」というような個数の目標や指示をすることで、一定時間（その個数に達するまでの時間）集中して作業に取り組んだり、自分から取り組もうとしたりする生徒もいた。

(2) 教材観

- ・本単元では、保護者や教師から製品の注文を承り、いただいた注文の数に従って納品、販売を行う単元である。注文を受けて製品作りに取り組むことで「誰のために」や「〇個作る」などの目標がもちやすく、生徒自身が購入する人のことをイメージしながら製品作りをすることができるため、より主体的に、丁寧に作業に取り組む姿が期待できる。
- ・作業内容は、表紙の製作、カレンダーの製作、製本などに分かれていて、それぞれの生徒の得意な活動を取り入れながら活動することができる。細かな作業が少なく、比較的不器用な生徒でも取り組むことのできる工程になっている。
- ・数字並べ、シール並べなど生徒が好きな活動を取り入れ、集中して取り組むことができた経験を繰り返すことで、作業学習に自信をもち、好きな活動以外でも、教師の指示を受け入れて作業学習に取り組むことができるようになるのではないかと考える。
- ・カレンダーは昨年も作業学習で製作しているが、今回は、昨年度のものとは大きさやデザインを変えているため、カレンダー作りをしたことがある生徒も、新製品を作るような気持ちで興味をもって取り組むことができるのではないかと考える。

(3) 指導観

- 生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、生徒自身が自分で目標を設定しながら取り組むようにする。その際、「カレンダー〇枚分の数字を書く。」や「表紙を〇枚書く。」などの具体的な目標を教師と一緒に考えるようにする。目標を明確にすることで、その目標を達成するまでの一定時間集中して作業に取り組めるようにする。
- 生徒がお客様のことを意識しながら作業学習に取り組むことができるように、可能な範囲で、注文して下さったお客様の名前を提示する。

対象生徒	H・K	単元における主な教科等の内容
単元の個別目標	(1) 数字を書く、シールを貼るなどの自分の作業内容が分かり、見本を見ながら作ることができる。 (知識及び技能) (2) 取り組む作業内容を選んだり、教師に報告をしたりしながら作業をすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) (3) 集中して、自分から作業に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	職業 1段階Aア (ア) (イ) 国語 小学部2段階Aイ 数学 小学部3段階Aア
主体的に活動する姿に対する実態		
<ul style="list-style-type: none"> ペンの色分け、ビーズの大きさ分けなど、何かを仕分けする作業に熱中することがある。目の前に仕分けたいものがあると自分から取り組み始め、止められなくなることがある。 数学や数字に興味がある。文字を書くことは苦手だが、数字は自分から書く。 文字は、自分の名前を平仮名で書いたり、画数の少ない文字を視写したりすることができるが、ほとんどの場合、なぞり書きをしている。集中しているときは、いろいろな文字を視写することができるが、集中できる時間は短い。特に、興味のない内容や教師が示した文章などを書く場面では、「漢字で書きたい。」「アルファベットで書く。」などと下書きに様々な注文を付け、なかなか書き始めないことが多い。 手先があまり器用ではないため、細かい作業は得意ではないが、それを指摘されることに激しく不快感を示す。これまでの学習の様子から、苦手なことに失敗を繰り返しながら取り組むよりも、得意なことを生かして称賛を受けながら取り組むことで、笑顔が見られ、主体的に活動することもあった。 電車のアナウンスや物語を話し始め、止まらなくなることがある。電車のアナウンスについては、普段から常につぶやいているため、無意識的に話していることがある。作業中に話してはいけないことは、理解している。 聴覚情報よりも、視覚情報の方が理解しやすい。何度も言葉で注意するよりも紙に書いて提示した方が、指示が通りやすいことがある。 		
期待される主体的に活動する姿		
<ul style="list-style-type: none"> 見本を見ながら、自分から作業に取り組む。 自分で決めた目標を達成するまでの時間、集中して静かに作業に取り組む。 		
主体的に活動するための支援と手立ての工夫		
<ul style="list-style-type: none"> 仕分けが得意なことから、カレンダーの曜日の部分をグラデーションを付けたデザインにした。自分から意欲的に取り組むことができるように、7色のシールを用意し曜日ごとに色を決めて、徐々に色が変わっていく並びでシールを貼るようにする。 シール貼りは自分から取り組もうとする様子が見られるため、カレンダーの曜日や数字の部分にシール貼りを取り入れる。 約束や目標を自分で思い出したり、意識したりして作業に取り組むことができるように、絵カード出来高表などを作業中目に入る場所に置き、少ない言葉掛けで注意を促す。 集中して作業に取り組むことができるように、本単元の作業内容に関係のないものは、目に入らないところにしまい、十分な作業スペースを確保する。 毎時間、授業の終わりに頑張ったことを発表する時間を設ける。称賛を受けることで、次回の作業学習への意欲につなげていく。 		

4 指導計画 (○本時 本時22/38)

時間	月日	主な学習内容
1	9/27	・本単元「注文を受けて作ろう」紹介 ・希望調査アンケート、グルーピング
2、3	10/11	・前単元「たてとく祭へ向けて作ろう」振り返り ・本単元「注文を受けて作ろう」作業班の発表
4～10	10/12～ 10/20	・本単元「注文を受けて作ろう」作業開始 ・工程の確認 ・カレンダーの表紙作成
11～36 ○本時	10/25～ 12/14	・役割分担の確認 ・カレンダー制作(数字班、イラスト班) ・カレンダー製作(ラベル班、製本班)
37、38	12/15	・納品 ・振り返り、まとめ

5 本時

(1) 本時の全体目標

- ① 自分の役割や作業内容を確認したり、必要な道具を準備したりし、手順通りに製品を作ることができる。
(知識及び技能)
- ② どうしたら良い製品を作ることができるのか考えて、教師に報告や相談をしながら工夫して作業をすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 注文をしてくれたお客様に対してどのような製品を届けたいか自分なりに目標をもち、集中して取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の個別目標

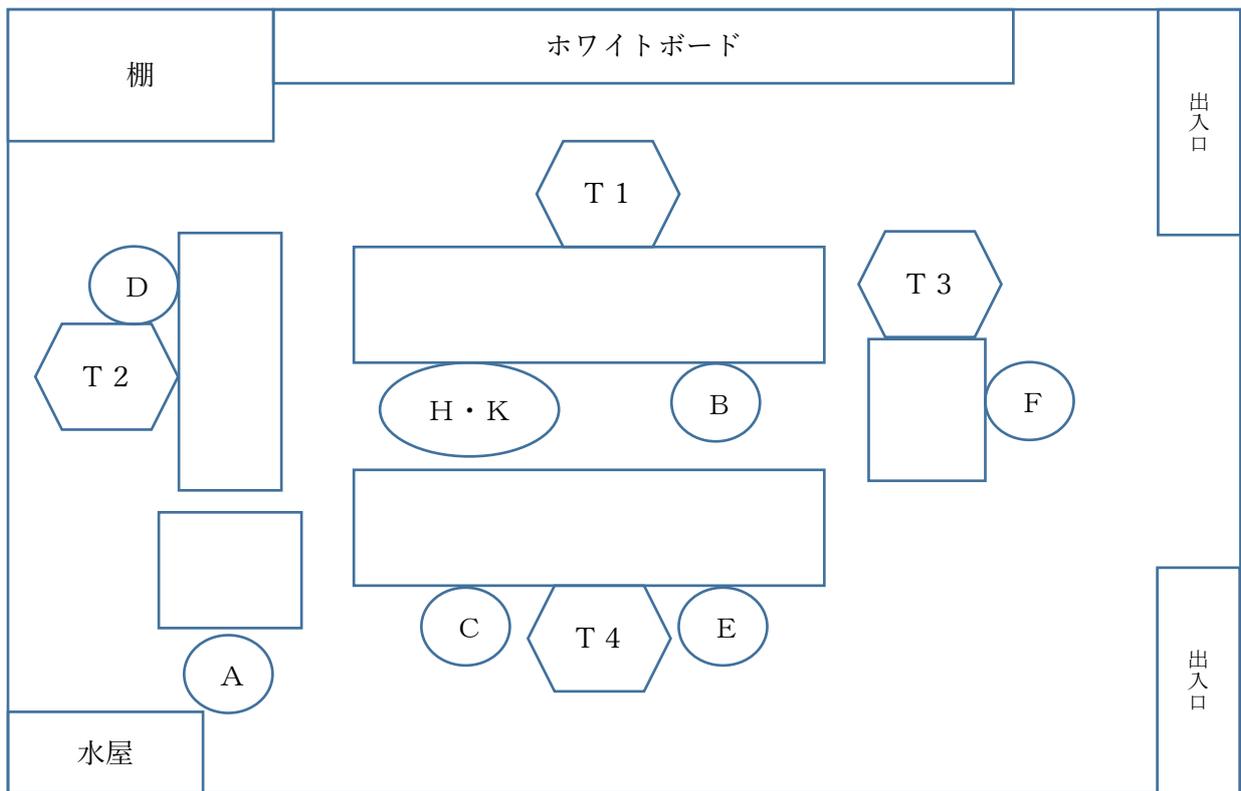
生徒	本時の目標(対象生徒)
H・K	(1) 必要な道具を自分で用意し、手本を見ながらカレンダーの数字を書いたり、曜日のシールを貼ったりすることができる。 (知識及び技能) (2) 数字や曜日を声に出して確認したり、教師に報告をしたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等) (3) 自分で決めた目標を達成するまで、自分の席に座って作業を継続しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

時刻	活動内容	・指導上の留意点	評価場面	☆主体的に活動するための支援と手立て
10:00	1 始まりのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ当番や役割分担、作業内容などをホワイトボードに記しておく。 ・今日行う作業の見通しがもてるように、作業内容の確認を行う。 ・生徒が日誌を書くことができるように、担当の教師が書く内容を確認したり、下書きを書いたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ☆生徒が自分の役割を意識して作業を始めることができるよう「○○さんは、今日は何の仕事をしますか。」などの質問をする。 ☆具体的な目標を本人が自分で考えることができるよう言葉掛けを行う。
10:05	2 活動内容の確認			
10:07	3 作業を始める ○数字班 ・数字シール貼り ・曜日シール貼り	○数字班 【数字シール貼り】 ・見本を用意する。		☆必要な道具や材料を自分で持ってくることができ

10:30	4 休憩 ○イラスト班 ・各月のイラスト描き ・表紙作り など	<ul style="list-style-type: none"> ・数字シールは実態に応じて、自分で数字を書いてから貼ったり、書いてあるものを貼ったりできるよう、準備する。 ・できたときは称賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>必要な道具を自分で用意し、手本を見ながらカレンダーの数字を書いたり、曜日のシールを貼ったりすることができたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して作業ができるように、場の設定に配慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>数字や曜日を声に出して確認しながら作業したり、教師に報告をしたりすることができたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーの1か月分の数字を書き終わったら、見本と見比べて、数字が合っているか声に出して確認をするよう、言葉掛けや指差しで促す。 ・水分補給、トイレなどを済ませる。 	<p>るように、かごにまとめて用意しておく。</p> <p>☆見本を手元に用意して、見ながら作業ができるようにする。</p> <p>☆カレンダーの1か月分の数字を書き終わったら報告をする、という流れで繰り返し取り組み、報告ができた時には称賛をする。</p>
10:40	5 作業	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き集中して作業ができるよう、後半の目標を確認したり、終了時刻を伝えたりする。 <p>○数字班</p> <p>【曜日シール貼り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本を用意する。 ・曜日シールは実態に応じて、自分で曜日を書いてから貼ったり、書いてあるものを貼ったりできるよう、準備しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分で決めた目標を達成するまでの時間、集中して作業に取り組むことができたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業の内容を振り返る時間を設ける。 ・振り返りシートに感想などを記入して発表し、教師と一緒に良かったところを振り返るようにする。 ・称賛を受けることで達成感、次回へのやる気を引き出せるようにする。 	<p>☆後半も意欲的に活動に取り組むことができるように、仕事内容を自分で選んで活動するよう、言葉掛けする。</p> <p>☆興味をもって取り組むことができるように、曜日シールの色の配列がグラデーションになっている見本を用意する。</p> <p>☆次回への意欲につながるよう、頑張ったことを発表する場面を設定する。称賛を受けることで作業学習に自信をもてるようにする。</p>
10:55	6 片付け		
11:00	7 振り返り		
11:10	8 終わりのあいさつ		

(4) 場の設定
中学部 紙1教室



1 授業者より

●小学部

<本時>

- ・対象児童はがんばっていた。最初の頃は、順番にこだわったり、見通しがもてなかったりして、不安になって活動ができなかった。前時と同じ流れで学習したことで、自信をもって取り組めていたと思う。
- ・主体的に活動していたかどうかを考えてみると、映像を活用したことで、自分から前に出て、自信をもって指でなぞって、図形を探していた。映像の力が今回魅力的だったのかと考える。
- ・学んだことを生活の中で生かすにはどんなふうにしたらよいか、生単との関連でどんなことを
- ・目的意識をもって学ぶためのところで迷いがあり、単元構成やサンタさんのからの依頼動画を取り入れることなど、学部での話し合いでアドバイスを受けた。
- ・対象児童に標準を合わせると、上位の児童が物足りなさを感じるので、どんなふうにしらば楽しく力がつけられるかを考えた、
- ・実態差がある学級なので、上位の児童も意識して、算数用語「角」「直線」を取り入れた。用語を使える児童もでてきた。
- ・直線や角を意識できていたかはわからないが、なんとなくのなぞりであった。今回の学習で捉えられたかわからない。これをきっかけに、形を使っての構成、なぞり描き、写し描きのこれからの活動で少しずつ気づいていけるのではないかと考える。
- ・画像の図形を指でなぞる場面では、形の違いに気づいているかはわからないが、形の分類はできていた。
- ・振り返りシートは算数科のみで、他の教科では行っていない。教師だけの見取りだけではわからないため。対象児童が振り返りシートを理解しているかは、わからない。

●中学部

<本時>

- ・対象児は、お客さんがいるということで、少し緊張していた様子だった。
- ・行動が少しゆっくりだった。
- ・前日から、お客さんが来ることや、教室を出る際に、お客さんに頑張っているところを見てもらおうねなどの声掛けを行った。対象児の口から「放送は教室です。」とでたことや、「作業日誌に放送をしないで頑張ると書きたい」という内容を話す様子があった。その結果、これまでにないくらい、作業に集中していた。
- ・授業を進めるうえで、指導案とは違う点が出てきた。一つ目は、“数字シールを書いたら貼る。”ということ。書くだけでなく、貼りたい生徒がいたため。
- ・二つ目は、「〇〇さんは今日は何の仕事ですか」と発問するという内容は、今までの流れで仕事内容を把握している様子だったため、削除した。
- ・三つ目は、意欲付けとして、注文してくれた人の紹介なども考えていたが、カレンダー

一製作に意欲的に取り組むことができる生徒たちだったため、削除した。

- ・生徒の実態に合わせて、曜日シールを書く、貼る、両方するなど、仕事内容を分担している。
- ・数日前から、数字の書き方にこだわりをもつようになった。特に数字の8は、上の丸は小さく、下の丸は大きく書くところだわり、何度も書き直しをして、時間がかかっていた。
- ・前に曜日シールを取りに行く場面では、短冊状に切られた曜日シールを、隙間なく貼られているものを持っていくこだわりがあり、自分の席に持っていくまでに時間がかかってしまった。
- ・作業2でのアクシデントは、作業1で頑張りすぎて集中が切れそうなときに起こってしまった。放送が止まらなくなった。
- ・放送をしないように促すイラストカードは、昨日までは有効だったが、当日は無効だった。また、イラストカードを提示すると、「〇〇さんが、勝手に貼ったため、放送をする。」と答える様子があった。
- ・何回か放送の注意をすると、逆に放送を頑張ってしまう様子があった。
- ・シールを貼ってしまった生徒から、静かにしてとの注意があった。振り返りをする場面では、注意をされたということが関連しているためか、「〇〇さんが気になることをしてごめんなさい」と謝る様子が見られた。今までは、日誌に書いていることだけを振り返りで話していたが、今回は自分で言葉を付け足す様子が見られた。自分が放送をしてしまった理由を、わかってほしかったから、そのような様子が見られたのではないかと感じた。

◎アクシデント場面について

ある生徒が、自分の余ったシールを対象生徒のところに貼りに行ってしまった。今まで一度もなかった行動。その生徒が、効率良く作業を行うにはどうすればよいかを常に考えているがゆえの行動だったが、突発的だったため対象生徒の戸惑いにつながってしまった。

<質疑応答>

- Q. 対象生徒の「ごめんなさい」は、シールを貼りに来てしまった生徒に対してのごめんなさいなのか。それとも、シールを貼りに来てしまった生徒に「ごめんなさい」と謝ってほしかったのか。
- A. 普段の対象生徒の姿から考えると、放送をしてしまったことに対する謝罪。
- Q. 話し合いの際に、作業振り返りシートや製作したカレンダーを見ることは可能か。
- A. 可能。
- Q. 対象生徒は書字が苦手だと思うが、カレンダーを製作する中で、失敗をして自分自身に怒りを覚えることはあったか。
- A. 書字は得意ではないが、数字に関しては書く。日誌は、教師がシールに文字を書いたものを貼るという形にしている。書き直しシールを用意したことで、間違えても書き直せるということで、怒りを覚えることはなかった。最近では、8の丸の大きさにこだわっている。

Q. 報告はどのようにしているか。

A. なかなか自分で言えないため、「出来たら報告します」と書かれたイラストカードを目の前に置いている。必要に応じて、カードを差し出し言い出すタイミングを見て、報告できるようにしている。

2 助言者からのご指導

●小学部 : 山形県教育センター 古澤 智 特別支援教育課長

<算数科の見方・考え方について>

- ・指導要領に沿った内容であった。
 - ①図形に着目・分類 ②特徴をつかませる ③日常生活の中で
- ・ホワイトボードでの分類する活動よりも、タブレットやサンタさん動画の活用場面の方が子どもたちの食いつきが高かった。
- ・座っている時間が長かったのでは？座ったり、注目したりする時間が長くなると疲れてくる。
- ・子どもたち自身がタブレットを使っていろいろな図形をつくってみると、さらに興味・関心が高まり、子どもたちの気持ちも前向きになる。
- ・興味・関心を引き出しながら、教材を設定していくことが大事である。

<教科学習からの般化>

- ・数字の「0」、「8」は○、漢字の「口」や「日」は□、ひらがなの「の」に○、数字の「4」に△があるというように、文字と形がリンクできるようにすると、カリキュラムマネジメントにもつながる。
- ・子どもたちが写真を撮って図形の問題を出すのも面白い。
- ・振り返りは、一律にしなくてもいい。
タブレットの映像の中から、子どもたちに一番気に入ったものを尋ねて、形の学習のまとめをする。例えば、「ドーナッツ」→「ドーナッツはどんな形？」→「○」その画像を印刷したら、学びのシートになる。
- ・写真を見て形をなぞる活動があったが、線にしてくれるとわかりやすかった。対象児童はふわっとした形をとっていた。できる子は、なぞってから線を出してあげるとわかりやすい。難しい子やあいまいな子には、線を出してあげてから、それからなぞるといった方法もある。

<小・中・高の連携>

- ・興味・関心・学びに向かう力を次の学部へのどう共有するかは、jam ボードを使って、それぞれの学部の意見交換するのはよい。
- ・離席や飛び出し、わからないことを相手に聞けない、失敗だとわかっているけども続ける、失敗して固まるなどが進路先でないように、活動に向かえるアプローチの仕方を考えておくことを小学部からつけてほしい。それが小・中・高の連携である。

● 中学部 : 山形県教育センター 伊藤 綾 特別支援教育課指導主事

<今日の授業について>

- ・ チームで話し合いがされている様子がわかる指導案であった。
- ・ 得意なところを学習に取り入れている。やることがわかることが子どもたちの主体性につながる。
- ・ 対象生徒にとって、書き直しシートがあることが安心材料になっていた。
- ・ 曜日シールを集めたいこだわりの支援があればよかった。
- ・ 視覚からの手がかりや視覚支援をして、言葉がけの支援を減らしていることが有効であった。
- ・ 作業室の環境がすっきりしていて良かった。集中しやすい、作業しやすい環境。→生徒が活動しやすいように日々改善されていた。

<目標の設定・振り返りに関して>

- ・ すっきりしていて、わかりやすい。
- ・ しぼりが少なく個に応じられたシートだった。
- ・ がんばることはっきりしている。
- ・ 対象生徒は、アクシデントがあったが自分で決めためあてが達成できるように、取り組んでいた。振り返りの場面では、初めてシートで書いていなかったことも発表した。
- ・ アクシデント、イレギュラーの時こそ、言葉が出る。自分の気持ちを伝えるチャンスをどう教師はどう対応するか。本人とのやり取りをしながら気持ちを聞き出し、イレギュラーな場面での対応できる力をつけていく。

<単元に関わって>

- ・ 指導案は、授業をやりながら生徒の実態を受けて、いろいろ変わったと思われる。
- ・ 単元の目標、「注文を受けて作ろう」は、注文数も決まっているので、「たくさん作る」よりも、「相手を意識して作る」という単元目標もあったのでは。
- ・ 全体目標の「一緒に取り組んでいる仲間を意識しながら」の部分が、本時はあまり見られず、「良い製品」の方が強く出ていたので、単元全体と本時の目標のつながりの整合性を吟味するとよかった。
- ・ この単元だからこそその目標、意味合いを受けて目標を整理するとよりよい。
- ・ 中学部学習指導要領作業学習では、「仕事の楽しさや完成の喜びを味わい、充実感や成就感を実感できるように内容を吟味する」とある。仕事の楽しさや完成の喜びをかんじられる作業内容を引き続き工夫してほしい。

1 当日の日程について	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者・助言者による振り返り時間が、下校時間と重なっていた。 ・ジャムボードの付箋記入に、まだ時間が必要で、話し合いの時間が短かった。 ・時間に余裕をもった日程だったため、動画視聴の時間を早めて授業の終始を見ることができてよかった。短縮3時間だったので、ゆとりをもって研修に臨めた。 ・助言者との振り返りの時間に何をするか、事前に打ち合わせる必要があった。 ・指導及び助言は学部ごとでもよかった。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間はいつもと同じがよい。生徒は、午前中下校で良かったと思う。 ・助言のみ場を分けるなどして、参加した学部授業についての助言をもう少しいただきたいかった。参観していない授業の助言は分かりにくかった。 ・他学部を見に行く余裕はないので、次の公開研から1学部に絞っての公開で良いのではないか。(3年に1回のローテーションで)
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部は作業の授業中で、授業研を参観しやすかった。 ・授業をしっかりと見るのであれば、他の児童生徒がいない方がよい。 ・午後を中心に進める日程で良かった。
外部参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年と同じ時期かどうかは分からないが、自身の学校の予定と合っていて参加しやすかった。

2 指導案検討・指導案について	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・学部での検討を計画的に行う必要がある。 ・さらによい授業を目指して意見を出し合い、児童の実態に合ったものになった。 ・早めに1回目の検討を行っていたので、よく練られた指導案になっていたと思う ・もう少し早い段階から完成されたものを検討したかった。 ・他学部の先生方と一緒に検討会ができたところが良かった。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学部も交じってグループでできたのは、自分ごととして捉えやすい。 ・授業者、学部で計画的に検討会を重ねることができた。 ・生徒は、指導案検討時から変化していると感じた。 ・小中で指導案の書き方に違いがあった。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の主体的に活動する姿について、読み取りやすくなっていた。 ・生徒の実態や単元の内容が分かりやすく記載されており、授業見学の際にも参考にしやすかった。 ・指導要領の内容が明記され、分かりやすかった。
外部参加者	<p>※「公開授業について」で回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細やかな指導や支援を受けて中学部の生徒が成長してきていることを感じた。 ・授業が廊下からの参観だったため、細かいところや声が聞こえず見取れなかったが、午後のVTR視聴で様子が伝わり、授業を振り返ることができたのはよかった。 ・VTRで再度視聴できたことで、授業参観時に見逃していた児童の姿も捉え、事後研に活かすことができた。 ・授業づくり、児童への働き掛け、ICTの活用に関して大変勉強になった。 ・小学部段階から中・高、さらに社会生活を見据えて日々の実践を積み上げていくことの大切さを改めて学ぶことができた。 ・作業学習では、どの先生が指導してもできるようにしていると聞き素晴らしいと思った。 ・子どもたちが集中して一生懸命作業している姿、先生方の声掛けが少なく、イラストカードで気づきを与えるなど工夫されていることに感動した。

3 計画・準備・運営について	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに迫る話し合いになるように、協議の柱を設定できると良かったのでは。 ・時期によっては、研究主任の仕事量が多く、業務の軽減が必要だったのでは。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の分掌部の負担が例年に比べ大きかった。 ・2学部同時の授業公開は準備、運営の面で厳しい。公開は1学部で良いのではないか。 ・前日準備、掃除に授業者も入っていたため、授業の準備時間で遅くまでかかってしまった。授業者は清掃から外すようにする。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り準備できた。 ・当日の流れがとてもスムーズだった。
外部参加者	<p>※「事後研究会について」で回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard を使った事後研では他のグループで話題になったことも知ることができて大変勉強になった。 ・限られた時間の中で考えを打ち切ることが難しかった。 ・口頭で話した内容を追加で記録の先生が打ってくれたことが良かった。 ・中学部・高等部それぞれの先生方の視点が違いとっても興味深く、勉強になった。 ・寒河江校で、事後研を2回ほど経験したが、出された意見の整理の仕方や深め方が参考になった。 ・先生方の細やかな見取りも大変勉強になった。

4 自分が学んだこと・次に生かしたいこと	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態をしっかり捉えることの大切さ。 ・ICT の活用の仕方。実態差に応じたねらいと支援のあり方。教材提示の順番の工夫。ICT の活用、児童への寄り添い方。 ・子どもの学びはどこにあるか、しっかりとした把握が必要。小学部段階から進路学習を意識し共有しておく必要があること。肝に銘じたい。 ・聴覚障害を持つ教員として、授業の工夫が見えてきた。視覚的教材の活用、ICT 活用の技術を高めないといけないと改めて再認識させられた。 ・目標を意識して、その達成に向けた効果的な ICT の活用を心がけたい。実態に応じた学習のまとめや振り返りの方法を考えていかなければならないと感じた。 ・他学部の先生方から見てもらうことにより、今付けるべき「次の学部で必要な力」が分かった。つけたい力を絞って明確にし、T1・T2 その他の先生方と共有することが大切。单元ごとの児童のめあてを共有していきたい。 ・実態差がある子どもたち一人ひとりに力を付けるための指導について今後も考えたい。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の振り返りやそれを仲間と共有すること、また将来につながる力を見据えることも大切であること。 ・生徒の実態を把握した上で、生徒が自主的に行うことができる授業作り。 ・日々の積み重ねが必要。個の実態をていねいにみとって最適な支援につなげていく必要がある。 ・生徒の可能性を最大限に、教師の支援を最小限に…。改めて、生徒の実態把握や教材研究の重要性を感じた。 ・生徒の特性を知り、それを生かした授業作りの大切さ。イレギュラーな時こそチャンス。 ・生徒をよく見て、その時々的心情を汲み取りながら支援することの大切さ。 ・仕事ができるかや技能を身に付けるかというだけではなく、目の前のことにどんな心構えやモチベーションをもって取り組むかということも、学びの主体性の大切な視点だと学んだ。

高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援について考えさせられた。自分が過度に支援を行っていないか、見直していきたい。また、生徒の気持ちの汲み取りを、より大切にしていきたいと思った。 ・一瞬一瞬を見逃さない事。ICTの積極的な活用、教室環境の整備、物の配置。 ・日常生活につながる学習活動の設定。教材の提示の仕方。 ・生徒が主体的に授業に取り組むためには、必要な支援かどうかを吟味して行っていく必要がある。見守る支援と最低限の視覚支援を検討していきたい。 ・小・中・高の連携で児童生徒にどんな風に力をつけていくかについての指導・助言を今後の指導に活かしていきたい
外部参加者	「2」に記載。

5	その他
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の事後研で記録担当者がいたのが良かった。 ・研究のゴールが何か、何を目指しどこまで積み上がったかが、職員全員で共有できるといいと思う。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備などの負担の大きさを考えると、今後は違う形の研究にしていけないか。 ・ジャムボードでの研究会はとても有効である。自分の考えを臆することなく書いて、他の先生方の意見を即座に閲覧できて…、授業で活用できると良い。そのために、もっと文章表現力とICT活用能力を鍛えなければ…！と思った。 ・参観時の廊下が寒かった。映像で生徒の手元で光が飛んでいて見づらかった。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部でつけておきたい力について、中学部や高等部からすれば、お願いしたいと思う。 ・公開研で高等部の授業提案は厳しいと思うので、今年度のように小学部と中学部の授業研にしてほしい。
外部参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の授業で心掛けたこと、取り入れたこと、たくさんあった。また、生徒が人懐こい子が多く好きなことや得意なことを初対面の人にたくさん披露できるのは素晴らしいと思う。 ・素晴らしい個性とお力を持った先生方が力を合わせて子どもの指導、支援にあたっていることを、授業を通して感じた。 ・多様性や集団の力って素晴らしいなと感じた。